

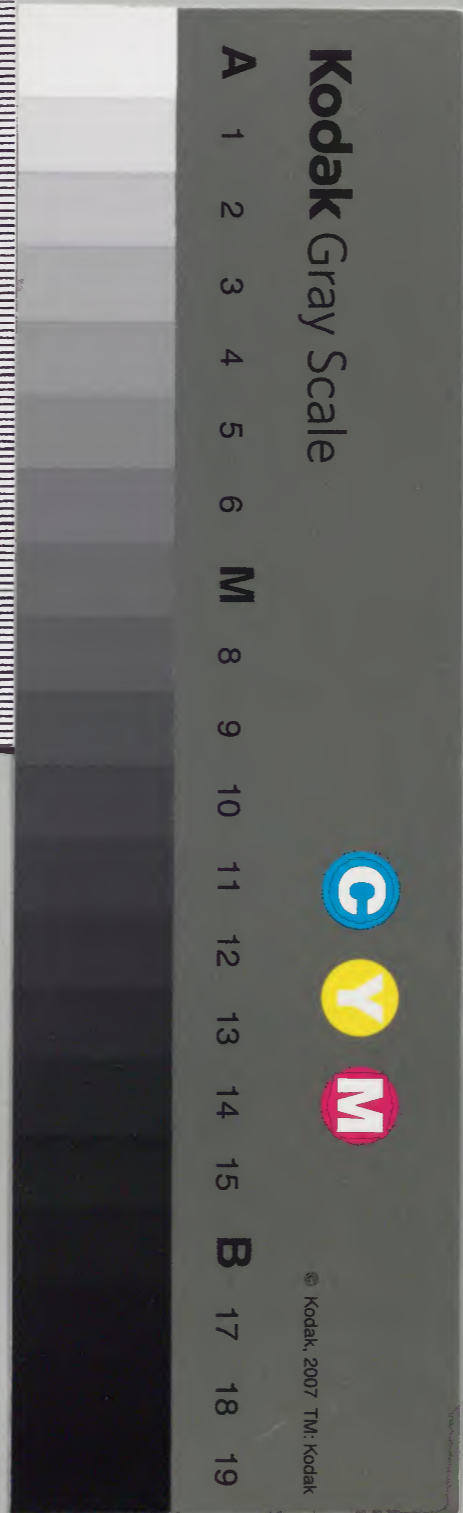
神代正語

下

大政官文庫			
和	一	一	一
書	六	九	〇
冊	架	函	號

內閣文庫			
和	一	四	〇
書	三	一	〇
冊	架	函	號

內閣文庫		
番號	和	11401
冊數	3 (3)	
函號	143	428



神代正語

神代正語下卷

内一二六八六號

教部

文部

國むもあはれ此後

天照大御神の命よりて豊葦原の千秋乃長

五百秋の長立

忍穂耳命此後

天忍穂耳命天浮橋よた

豊葦原の千秋の長立

神代正語下

○神代正語下

〇一

三年ミトセよびりて。復命ヒノカミヒサ白。天若日子乃らたり。

高御産巢日神タカミミ天照大御神アマテラスオホミカミ又りて。此神カミ

葦原中国アサハラノオホツクニよりついでに。天若日子アメワカヒコ

早神ヒノカミ久しうわたりて。又りて。

神カミをたつて。思金神オモヒカネノカミ

天津國玉神の子アミツクニタマノカミ天若日子アメワカヒコをたつて。

ちして。

天若日子乃らたり

天カレ之麻迦古弓アメノマカコユミ天アメノ之降ハ矢ヤを天若日子アメワカヒコ

又賜タニひて。天若日子アメワカヒコ彼國カノクニより。

大國主神オホクニヌシノカミの御ミ下照シタテ

比賣ヒメを妻メとし。又其國ニタラシクニを得トむ。思オモヒひたりて。

八ヤ年トシハ。天照大御神アマテラスオホミカミ高御産巢日神タカミミ又りて。乃

神カミをたつて。天若日子アメワカヒコ久しうわたりて。

天若日子アメワカヒコの神カミをたつて。

ワカヒコ 久 留 所由 同
若日子がひさしんみまふゆきをさば
先む。同 諸の神より又思金神
まをささく。雉名鳴女をたぐししてむまを
何ふ其名鳴女下跡り跡もく。汝ゆきそ。天若日
子おとむむはまの。汝をあしはののちうらふ
よつうをささるゆき。其國のあはる。神どもを
むまをささるや。なり。那ぞ八年よなるまをささ
る。まをささるや。のめ跡ひまかさ

又名鳴女天より降 到 天若日子が門なる
湯津 楓 上 居 委 曲 天神の大命の如
ゆりうれふ。天依具女は鳥のり。をささる
やのりき。天依具女は鳥のり。をささる
天のひさふ。鳥あはる。音 甚 惡 射 殺
跡ひひ。天若日子。天神のめ
る。天之波士弓天之加久矢をもち。は雉を射
る。其美雉の胸より。通
いあが。天安河の河原ま。坐 天照

死シびくビク比ヒあアしシ御ミ佩ペしシ比ヒ十ト
拳ツカ劔ツルギをヲぬヌすス其ソノ喪モ屋ヤをヲきキりリあアをヲ足ツもモてテくク
急ツたタぬヌらラやヤめメきキくクあアまマ美ミ濃ノ國クニのノ藍アイ見ミ川カハ乃ハ川カハ
上カミあるル喪モ山ヤマやヤりリ其ソノ持モチてテきキぬヌ大オホ刀ハカリのノ名ナハハ大オホ量ハカリと
ぞゾしシひヒあアるル又マタのノ名ナハハ神カミ度ト劔ツルギとトりリふフ
翠スズ鳥トリハハおオきキりリ美ミ濃ノをヲみミぬヌ川カハ上カミをヲ
かカくクのノこコろロをヲ
あアらラしシきキまマらラのノひヒとトぬヌのノ神カミハハおオきキりリぬヌでデめメてテ

トトビビササリリタタテテココノノカカミミ顔カミ光ミツ儀ギ甚シ麗レ
飛トビ去サるル此コノ神カミのノかカさサがガいイはハらラるルはハしシてテ
二フタ尾ヲ二フタ谷ニのノあアひヒふフてテりリかカやヤりリぬヌ其ソノ伊イ呂ロ
妹モメ高タカ比ヒ賣ウ命ノミ其ソノ名ナをヲあアらラしシむム思オモひヒてテうウ
たタひヒあアらラるル天アメのノやヤおオきキりリぬヌのノうウなナ
がガせセるル玉タマのノまマじジらラるルみミまマあアらラしシむムあアらラしシむムのノうウなナ
真マコ谷タニ二ニ度タのノまマじジらラるルあアらラしシむムのノうウなナ
うウみミぞゾやヤけケらラるル夷ヒナ振ナりリあアらラしシむムのノうウなナ

伊呂妹のしるし

○神代正語下

大國主神函ありけり

天照大御神の孫と孫と又いづれ乃
神を此のくしてばえむか思金神又小
ろく乃神ふらまをしむく天安河の川
上の天の石屋よまのイ都之尾羽張神
此のくし又此神なるは其神の
子建御雷之男神これつくとまづ其天尾
羽張神を天安河の水を此のくせきとあて

道をせき居むあし神をえゆし故こ
と天迦久神を遣くそとまをしき
故く天迦久神を此のくして天尾羽張神
とくしかし此のくむ然む
此道よ吾子建御雷神をくまはし
してまはらしめてまはりきた天鳥船神を連
御雷神よそくしき
くをくは二むしらの神出雲國の伊那佐

○神代正語下

八

祭 オホクニヌシカミ 答
まろ〜〜カミ 恐 アミツカミ 天神の命にまゐりて

奉 吾 所 知 アラハニゴト 吾者 百 不足 ヤソクニテ 八十垺手カ 小からり侍 侍

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

よのゑや 栲縄をぬくは

上カミ 伴カミ 大カミ 國カミ 主カミ 神カミ のカミ ぬカミ がカミ 何カミ のカミ 志カミ をカミ 隠カミ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

〜カミ 幽事カミ 志知 一白 中カ 成カ してカ 志カ 切カ をカ 隠カ

アメノホロノミコト
 天菩畢命を以て汝の前をいつまき
 らしめかきしめり給ふまごのこもぐ
 乃供給も皆現海身のくめをあらはせ給
 此海靈のくしのこもあなり
 故ままを以て給ひしまふく出雲國の多藝志
 之小濱も天の海あらしを造りて水戸神の孫
 梯八玉神をかきしめて天御食もて
 まつる時よ給ふまを以て梯八玉神鶴り

化海
 化りてくみ底よ入て底れたるよを吐出し
 て天のやまびくを修りて海布のかりを刈
 て火まり臼つくり海尊乃くを火まり杵
 よけりて火をきりいでまをししをけ
 再所鑽
 火をきりて火をきりいでまをししをけ
 命のこもあはれ新巢のまこれ八束もは
 まごのまもあげ地の下の底津石根よま
 疑
 考繩のちひろなまを延釣

せる海人が大口れ小をいひよはるくす
寄上 拆 女ナ
よせあげてさげ外のとをくく天のまは
食 献
いひしをさうくむまをき

孫のひびき 海布の免 海尊をこる

右の伴い出雲れ杵築大社の神事なりし

又も天菩早命を國體見よはるししる時

其天菩早命天かきり國かきりて天の下を見

免なりてわたり言まをしし強く豊葦原の

水穂國をいひくさやきりあめちのれも志
平 甚 喧擾 静
づめかきりて皇孫命よ安國とくひもく
所 知 看
ちるしをさうくむまをきりておのれ命
乃海子天夷鳥命よ経津主命をさうて天降し
乃カハ 荒 カミ 言向國つら
遣しあふる神をも言向國つら
大神をりし志所をて大八嶋國らし事
顯 静 現
河もる事事はしはる故大穴牟遲命大
ヤレニクニコトサリ 奉 オレニコト ニキミタニ
八嶋國事避まらりて已命の和魂を八咫鏡

取託 倭の大物主梯懸玉命と海名を
 稱 オホモノヌレクレミカタニノミコト
 大美和の神那備よませせて皇清孫命
 置 ヤホニキツキノミヤ
 の近守神と坐 八百丹杵公築宮
 鎮 坐
 又坐 八咫鏡をやるかぎ
 國體のふが
 國はくく大神とい大穴牟遲命をまを以て
 くらりかの葦魂奇魂乃辰と考一合を以し

大美和大物主神の祭乃くらり

カレ オホモノヌレノカミ コトシロヌレノカミ ヤソヨロツノカミ 引
 なくく大物主神事代主神八十翁神をひよ
 率 アメ タケチ 集
 のて天の高布よつとて天よまぬけあめて葦
 ハラノオカツクニ 既 コトサリニツ 白
 原中國をてて事避奉アしナカをまをし
 女ニ トキ タカミ ムス ビノカミ オホモノヌレノカミ
 跨ふ河よ高湯産巢日神大物主神よけりた
 まましく汝もし國神乃女を妻とせむ 疎
 コノロ カレアガミ 女 ミホツ
 しき出河むむおも故吾湯むらめ三穂津
 ヒメ 比賣をいすいすは妻とせむ故け八十翁
 カミ 帥 永 護 奉
 神をわてしあしは湯孫命をまもりあつ

和魂乃皇孫命此近守神也ニキミタニ。始の式也ニモリガミ。又奉
 倭の大美和又坐名也ヤマト オホミワ。始の式也ニモリガミ。又奉
 大美和神也オホミワ。始の式也ニモリガミ。又奉
 代主神の御靈也チカキニモリガミ。近守神也ヤマト。倭國又坐
 也ニキミ。其祭也ニキミ。始の式也ニモリガミ。又奉
 和國城上郡大神大物主神社オホミワ。名神大月次
 相嘗新嘗 城下
 郡村屋坐弥富都此賣神社ニスホ。大月次相
 嘗新嘗 葛上郡
 鴨都波八重事代主命神社カモツ。名神大月次
 相嘗新嘗 高市

郡高市涉縣坐鴨事代主神社ノミアカタニ。大月次
 新嘗 飛鳥坐
 神社四座並名神大月次相嘗新嘗。又此齋主神也イヒヒスレ。其祭也ニキミ。始の式也ニモリガミ。又奉
 社也。下総國香取郡香取神宮カレタチミカツチノカミ。名神大月次
 次新嘗
 故建雷神也カレタチミカツチノカミ。返返。其祭也ニキミ。始の式也ニモリガミ。又奉
 乃也。國也。其祭也クニ。始の式也ニモリガミ。又奉
 也。其祭也奏。始の式也ニモリガミ。又奉
 又也。建雷神也ニク。其祭也奏。始の式也ニモリガミ。又奉
 也。其祭也奏。始の式也ニモリガミ。又奉

後取 ガミ タチ ハ ツチノミコト 神建葉椎命を遣して言向し
還 参 上 坐 参 上 坐
あつりまののちりま 降しんあま

法孫命にあり乃後

アテラスオホミカミ タカギノカミ ミコト 以 ヒツキノミコト
天照大御神高本神の命もらて皇太子正
勝吾勝勝速日天忍穗耳命と詔をく今葦原中
國に言向 訖 白 故事依し賜つて
降すまして志をく 所 知 着
ひきくふ其ひつぎの法子正勝吾勝勝速日天

オレホミノミコト 白 忍穗耳命のまをく 降すまして志をく 所 知 着
装束 降すまして志をく 所 知 着
よそひせしちりま 降すまして志をく 所 知 着
途彼志國途彼志天津日高日子番能途 忍命
は法子を降すまして志をく 所 知 着
高本神の御女萬幡豊秋津師比賣命と法あひ
まして生すまして志をく 所 知 着
迹々藝命よまに放其天火明命此法子天香山命
尾張連らが祖なり

火明をちあかり。香山の地をかぐや。
 故くをもてま残し残ふまふく。日子番徒
 逆く蘇命の命おちきて。此豊葦原水徳國の
 みまし志をさる國わめゆ。奉依しきまふ
 故命乃まみく。天降坐。天津日嗣
 天地のむき。常磐堅磐下。けのえまを
 むゆ。残ひま。
 又くれをきし。八尺勾玉鏡又草薙劔又常世乃

思金神手カ男神天石門別神をそく。残ひまの
 了。吾侍前をいれくぐりゆ。いつまはけり。
 次り。思金神の侍前乃事をとりまらしてまらり
 ろ五十鈴宮といつま。次又登余宇気神こ
 外宮之度相り。坐神あり。次又草薙劔を
 尾張國乃年魚市村ふゆ。次又天石

○神代正語下

○二十

故天宇受賣命海氣よりひくく其口やろ
 せぬ口やろいひく紐小刀をもちて其口をさす
 ぬき海氣乃口をけりて其口をさす
 世く鳩乃速勢くまのまは時り
 君らり賜ふなり

海氣ハる。紐小刀をひくく

猿田毘古神あきりの辰

加々々猿田毘古神阿邪訶り坐くる時り
 坐くる時り

比良夫貝又其手を喰谷さす
 おちる路ひま故其底よ沈る
 時の傳名を底度久傳魂とまを
 都夫多都傳魂とま神其津
 阿和佐久傳魂とまを
 或又伊勢國壹志郡阿邪加神社三座
 大山津見神みまひの辰

カレソノチ、オホヤニツ、ミノカミ
 故其父大山津見神よこひよはのそ〜
 大 歎 喜 ソノアチイハナカヒ
 い〜よら〜び〜其姉石長比賣を〜
 取の机代乃物をも〜
 好〜小其阿の〜
 返 送 おら〜
 思賣をの〜
 又大山津見神石長比賣を〜
 返 送 言

アカムスメフタリ 並 奉
 吾女二人あ〜
 ヒメ 使 命
 比賣を法〜
 ヌキ 磐 堅 磐 坐
 雪ふり風も〜
 磐 堅 磐 坐
 使 使
 賣の法〜
 坐 禱 奉
 ま〜
 ナガヒメ 返
 長比賣を〜
 留 命
 天神降子此法い〜
 アニツカミノミコ
 命 命
 天神降子此法い〜
 コノハナ



板元



水樂屋東四郎

尾張名古屋本町通七丁目

[Faint handwritten text in the background of the right page]

参考熱田大神縁起 一冊

尾張國熱田神宮ハ三種神器の其一草薙宝劔と納奉
 正殿中妙小日本武尊と祭天照大御神其餘三神と合
 上つりて延喜式神名帳小名神大社とせり實に伊勢
 小並びて千古不易の貴き神官たり柳武尊の天下小大
 功と立とまゝ一更申も愚るで智勇兼備の神徳万世小大
 色ぞり世と治る人々やまひはつりるハ下ハ咄々ぬ大
 神小ましましと抑此縁起ハ貞觀十六年神宮の別當尾張
 連清福古記古老の語傳と通とて稿有しと尾張守藤原
 村相漆削ありて落成し一通と公家に奉り一通と社家
 小贈て一通と國の佛の盛るりしにさる小寛平二年十月十
 五日傳純粹の當時儒佛の盛るりしにさる小寛平二年十月十
 古傳純粹の當時儒佛の盛るりしにさる小寛平二年十月十
 信諸本と轉寫し起脱少りぬと熱田の医師伊藤主計
 民諸本と猶た其男子訛り共校讐し参考注解懇切
 りて上木とせり但し此縁起ハ武尊西征の事と記され

古事記日本紀
神階の次第撰社未社
一冊と見ると則ち熱田大神の靈蹟
六年三月作者自序あり
〇文化八年夏秦鼎先生序明和

直毘靈

一冊

此篇ハ道といふ
天照大神の御生ませる大御國
万国の御神としるまふありぬ
古の御手振とて世の害にたり
神道の天皇の大御神とま
かぎりのまがとて道とむ
の外なくあひて道とむとむら

三

み心と被ひ清めてき
とよく其とあるを
へたるも禍津日の神のみ
らけりまよひの議論
十月九日小かきとへ
と古事記傳一の巻の
い戦行の小冊とむら

萬我能比禮

一冊

古來神道と稱者佛道と
古人未發の魁解と立聖人の非
驚きいぶかしと微せがりし

こ小信濃國上田の小林文康彼書の証の多きとこの
すしおらば初学に華の惑とたなやて此書とあ
らこしその僻言と漢学の道の教ざ田のりしきとも
心れりその照しみよして磨なす真澄の鏡照し見
漢の心の闇ハ明らんやリ一哥とよみやがて書名
とるるなり○直毘靈葛花其餘の書ふも故翁
もかりし説とも書出古学者小益多き書心○本居先生
孫有郷主序尾張儒官鈴木翁序天保五年二月伊勢山本
吉正上木の跋あり

花能志賀良美

一冊

是十級長戸風と論序云たれ書して下総國勝鹿小松川
あふりる菅原定理の著述る麻須羨能鏡し並見
小畢竟ハ同じものゝら其能裁悉異り彼小ありき
く此に精く更小珍しきいひあしもあて初学小も心得
易きと語とよれむ全文約ふして俗談平話とす
とかし夕十あり序かくの心得ともさとし彼書小て

五

小をもと錯て假字づつひとたりしと古またりを
べて取進き詞やてはりたる真澄鏡とよま人も必
す此花の云がらみをよめる悪風○書名ハ本居翁と
櫻根大人と謚せる小つきてさる悪風の為花をあら
さじしてとがらみたるよしの名るるべし○一名と妙
ふて出してと戯よべよと級長戸風の風氣とけさ
らえめんとしてとみづうらいつり○天保九年四月自
序あり

詞のひ合鏡

二枚

岩雲花香柳澤信郷とやと小著を○活語の定格変格に
先達の考漏されるると補ひ活用の例と詞数いと多く
出し心得易うるべく回小ありハ細小訓さやしたり
て小を以て鏡詞ハ語学家有益の十のなす
るぬ指南書して語学家有益の十のなす

天保九年

後撰集新抄

十五冊

後撰集廿卷ハ天曆五年坂上望城源順紀時文大中臣能
 宣清原元輔等に識ありて昭陽舎小万葉集と讀解せ
 させり時次ハ和歌ハ所ハ別ハ當ハ茶抄ハ千四百廿首今
 本ハ千四百廿六首御抄檢六首あり○本居大平翁此
 新抄の序小いとく後撰集ハ古のみさうありし代上村
 天皇の哥どもにて歌学の道小くりてハよく明りずて
 今集ハ大うた哥に辱まじらむ撰ハ季ハ意ハ雜ハ等ハ合ハたハ俗ハも
 ひたるハ外ハ此ハ集ハ其ハ表ハ裏ハ小ハ都ハてハいハやハ見ハるハ小ハ隨ハひ
 思ハひハのハ外ハ當ハ時ハ家ハ々ハのハ集ハよハまハ何ハ小ハまハ見ハるハ小ハ隨ハひ
 けハ撰ハこハひハ彩ハ集ハてハ其ハ哥ハのハ好ハ列ハとハもハいハこハばハ見ハるハ小ハ隨ハひ
 つめたるハ従ハひハ彩ハ集ハてハ其ハ哥ハのハ好ハ列ハとハもハいハこハばハ見ハるハ小ハ隨ハひ
 もいとくハとハしハきハ幸ハにハらんハ中ハ畧ハこハもハがハ註ハ釋ハとハてハハハ為ハ家

九

の大納言抄と季吟法師の八代集の抄さて契沖阿
 關梨の聊物ハ書加へたるのみ小ていづをも門人中山義
 ヤ三河比國吉田殿小任へて萬はめ人なるが先つ頃
 其君より畏き倭更と内々ながらうけたりてことガ注
 解とあひものそれエネ○此集ハ學者の專要なる
 小いすべて由緒らる歌ふとを詞書とくしめて意得
 なくすべて由緒らる歌ふとを詞書とくしめて意得
 たき更の問し精らるさ石よ先やうに深く考友小か
 ひ師小篋問し精らるさ石よ先やうに深く考友小か
 先達の詔當時ハ人の新説ともあはる限る並解し諸抄及
 く明細ハ別記ハ出集ハ中ハ作者ハのハ系ハ傳ハ官ハ位ハ等ハのハ次ハ弟ハと
 考小の巻末ハ春ハ四ハ夏ハ五ハ六ハ七ハ秋ハ九ハよハ十四ハ意
 委曲ハ春ハ四ハ夏ハ五ハ六ハ七ハ秋ハ九ハよハ十四ハ意
 別記一冊 雜以下并追考 綱刺

新古今和歌集新鈔 四卷六本

外題よハ新古今和歌集ハ五御撰抄と有卷尾ハ新古今集註と
あて馬新古今集ハ五御撰抄と有卷尾ハ新古今集註と
日御撰抄と有卷尾ハ新古今集註と
藏御撰抄と有卷尾ハ新古今集註と
將雅朝臣等撰定家朝臣前上給家隆朝臣右少
成卿の喪よこも撰定家朝臣前上給家隆朝臣右少
かこしぬるしよかきて此撰心小適くぬけなれど又
そもく二十一代のわりの巻々玉とくばき金とらう
い其聲傳ふは夏やかどへ多り中にさしはらう人
の心集に色と見せ言葉の露のひとむそびやさし
そ此集に秘蔵せられしとふる宗祇法師の草菴の座右
ていよもむしハ後醍醐天皇の御代小歌学者の名高
しさて此の新鈔ハ後醍醐天皇の御代小歌学者の名高
く詠とこひがな簡と加へかきにく縁の作先達
の詠とこひがな簡と加へかきにく縁の作先達

新古今集美濃の家叢 五冊

えかほ小猶もまた了哥多かてけとハ玄吉法印年来聞
おのれけり義小よて惠雲院殿長二年の奥書見ゆ
御説と述て増補あつたよ慶長二年の奥書見ゆ
今の本一巻の作者の畧図巻毎小出づる歌とふら
次ハ此部と作の畧図巻毎小出づる歌とふら
り古の仙たら人の注にそきその物るれとさす
近世の和漢の故更れと解にそきその物るれとさす
まゝと漢の故更れと解にそきその物るれとさす
家叢と和漢の故更れと解にそきその物るれとさす
しき書札り元江戸本橋万屋傳と悉直して善本と
購得て板木の磨滅かけ損じたり兵衛の板りけり
新古今集とえらて其風體も痛くは常格不錯もあ
上古今集とえらて其風體も痛くは常格不錯もあ
く其調とや詠出或ハ齋密と好くは常格不錯もあ
奇々其調とや詠出或ハ齋密と好くは常格不錯もあ

意も小英雄の所為を悉く温和のやを打聞て感ふ堪らざる歌
 味も一容易く解し得るをくぬけし集り古今集等れの如く又
 鏡の俗語もて諷刺あはれ初学の為小八車せまくの四巻
 柳加藤盤齋れ増抄あれ十卷千九百八十餘首と抄録
 遊のハ此書ハ本集二卷の歌かきり六百餘首と抄録
 釋ハあはれまめや論ある鬼解ともちて一首に小義
 も例のよに又詞めや評しひ解ともちて一首に小義
 さしまるし又詞めや評しひ解ともちて一首に小義
 小し思ひつたかび迎調れ歌人よみ味を益いと人多か
 せらる思ひつたかび迎調れ歌人よみ味を益いと人多か
 よく辨へられ己の巻首ハ大矢重門の中此集れ歌ども
 来居て何くれと書ハ巻首ハ大矢重門の中此集れ歌ども
 の心むへつらひとこけはとヤクハといたつ採あるにさ
 としわげつらひとこけはとヤクハといたつ採あるにさ
 づお書おるしひとこけはとヤクハといたつ採あるにさ

加藤磯足大矢重門及泰馬漢文の序あり寛政七年刊
 こは寛政三年四月の夏ハて翁六十二歳の時にて

美濃の家裏折添 三冊

是も重門にちとへらもたる書小して今附録せして合
 妙も家づと小残もる花もとて上巻ハ新勅撰集續後
 未ととが採でと巻首小出して上巻ハ新勅撰集續後
 撰集。中巻ハ續古今集。續拾遺。新後撰。玉葉。續千載。下巻ハ
 風雅集。新千載。新拾遺。新後撰。新續古今。まよひる歌少
 へて千載集とむらの勅撰よてれもふよしはる歌少
 しとて撰出せし本篇のど寢もし難しむよと難せり其
 意とと釋せり契沖法師の難勅撰の説とと又難せり其
 中に歌のこあげて評も注とらさあて後小書加へんと
 てあうねむ其ま小上木せる心

尾張廻家苞

五冊 九本

此ハ新古今集美濃の家裏に出して本集れと殊小徹細に褒貶
 し付巴の辨説と多し正明ハ俗稱喜左衛門尾張國神
 守村の人名初鈴屋翁に隨ひ後江戸小出で故稿檢校保
 己一の門入る博覧卓見豪爽酒落の字者して雄壯論
 をる所も鈴屋翁の如く温相なる夏格と放と雄壯論
 らる新古今時代の風調小相協ふる夏格と放と雄壯論
 以らるる至當の語少く題も上巻首に江戸の語
 美濃の家裏の一芭書たりふる又當時の歌れる為
 家為兼兩郷の家裏の風の子細いと懸隔と論弁せり美濃
 尾張二つの家裏のつとけとこり懸隔と論弁せり美濃
 互小相背けと彼も此もさばと文道理備れ近調家共
 に熟覽せまかしく書とも心象と探る比譬とひきて一
 序のて鏡面王経と識り象と探る比譬とひきて一
 巴のて鏡面王経と識り象と探る比譬とひきて一

十二

發行

書肆

江戸日本橋通二丁目
 同 日本橋通二丁目
 同 淺草茅町二丁目
 同 日本橋通二丁目
 同 芝神明前
 同 兩國横山町三丁目
 同 芝神明前
 大坂心齋橋通北久太郎町
 同 心齋橋通安土町
 同 心齋橋通博勞町
 同 心齋橋通安堂寺町
 京都狹屋町通姉小路上
 尾州名古屋本町通七丁目

須原屋茂兵衛
 須原屋新兵衛
 須原屋伊八
 山城屋佐兵衛
 岡田屋嘉七
 和泉屋金右衛門
 和泉屋吉兵衛
 河内屋喜兵衛
 河内屋和助
 河内屋茂兵衛
 秋田屋太右衛門
 俵屋清兵衛
 永樂屋東四郎

